

### 矢山岳の地質巡検

熊本大・教育4年

森崎史郎・島田礼二

平成7年5月27日に標記の巡検会が実施された。案内は岩永恭一先生、参加者は26名であった。8:30分に熊大教養部前を出発、車6台で矢山岳方面へ向かった。

途中2ヶ所で停車し、最初の地点で臼杵一八代構造線の説明を受け、後者では玄武岩が熱変成を受け緑色岩となり、また、角閃石から蛇紋岩となった岩石を観察した。

その後、水無谷に向かい、下る前に車道の右側の露頭を観察、ジュラ紀のプレートの沈み込みにより付加された層についてボードの絵による説明を受けた。

水無谷に向かう途中矢山岳層の最上部に近い所で、枕状溶岩を観察、石灰岩中にはフズリナの化石を見ることができた(図1参照)。

水無しの谷の砂防ダムの上の方で、アンモナイト(ゴニアタイト型)の化石の採集を行った。

他にフズリナや海百合の化石も採集した。その後昼食をとり、また、しばらく採集を続けた。矢山岳山頂に上る途中、ひょうの堆積物を見、解散した。岩永先生にはいろいろな地質事象をボード等を使い詳しく説明していただき、学生の私たちにもよく理解できた。心から御礼を申し上げます。

(主要種の層序的産出範圍)

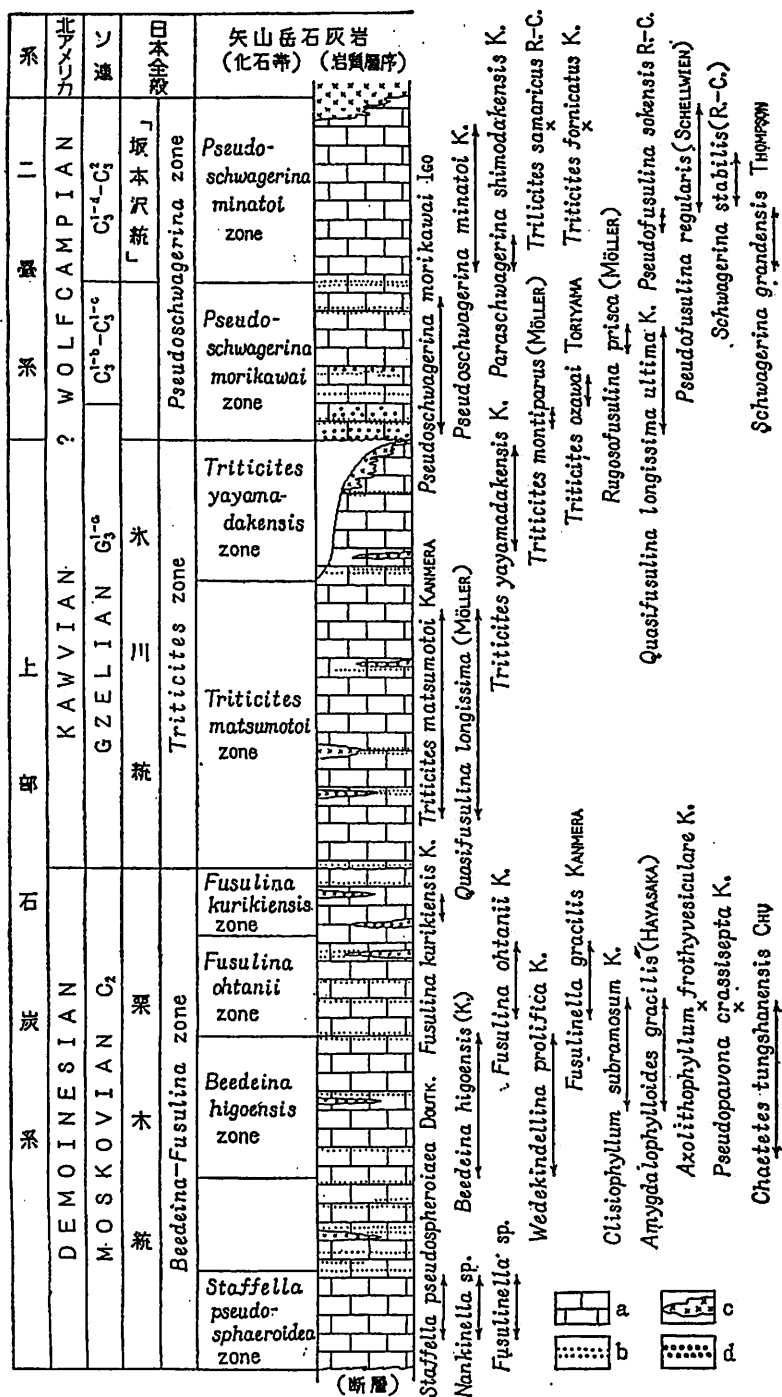


図1 矢山岳石灰岩の層序柱状図と化石帯 (勘米良博士提供)

a : 石灰岩 b : 状石灰岩 c : 塩基性凝灰岩 d : 石灰岩礫岩